

風景デザインレター from 九州(第 42 号)

昨日は、佐賀大学名誉教授で私の恩師の荒牧先生より、「有明海環境異変を科学技術はどこまで解明したか」の講演をお聞きすることができました。冒頭に出てきた話で、これまで有明海は泥化していると考えていたが、実は、ここ 10 年のデータは粗粒化しているとのこと。「思い込み」に陥った話をされました。これを聞き、「思い込み」、疑ってみるということで、・・・

「公共施設のデザインを検討する際、「地域らしさ」を求めることは正しいのか。

【「地域らしさ」はデザインできるか？】

「思い込み」は怖い。その「思い込み」が思考の出発点になっているときは、いろいろと考え悩んだことがすべて無駄になることもある。振り出しに戻るはめになる。

私ごとだが、以前、演劇やっている息子から、こう聞かれた。「親父、仲間から尊敬されるためにはどうすればいいか」と。彼は、劇団の主宰者のような立場で、脚本や演出をやっている。そのような立場で、これが悩みとして芽生えたのだろう。そこで、親父の答えはこうであった。「ばかだなあ、おまえは。考えても見なさい。尊敬されたがっている人をおまえは尊敬するか？ 尊敬というのは、やってきた結果であって、目的ではない。今、与えられた仕事をしっかりやることで、間違っても、尊敬されたいということを目的にしてはいけない。目的と結果を取り違えてはいけない」と。

もしかして、「地域らしさ」とは、結果の話で、地域らしさは目的として求めてはいけないのではないのか。頭から、地域らしさというのは目的にして作り上げることができるのではないかと、「思い込んでいる」のではないのか。そんな疑問が、荒牧先生の話を受け、心に芽生えた。そこで、思考してみると、・・・・・・

「らしさ」がつくものにはどのようなものがあるか。例えば、「福岡らしさ」で取り上げてみる。

福岡らしい風景
福岡らしい味
福岡らしい建物

福岡らしい椅子 ×
福岡らしい財布 ×に近い
福岡らしいバス ×に近い
福岡らしい車 ×
福岡らしい街並み

いくつか同じようにあげ連ねると、次のようなことが分かる。そこにある一つ一つのパーツでは、「福岡らしさ」というのは原則あまり当てはまらない。例えば、椅子や、橋や、人や、カレーライス（福岡らしいカレーライスは×だろう）。ただ、素材に福岡らしさというものはあるかもしれない。

一方、当てはまるのは、風景、場所、祭り、味、街並み、風情。

仮定として考えた、「福岡らしい」というのは、多くの要素が集まって生まれる特徴的な結果を表現している言葉であって、「福岡らしさ」ということを目的として作り上げたものではないということだ。意外と、あたっているのではないか。そう、地域らしさは、人間に例えれば「人格」のようなもので、集合体としての表層として現れ出るものであるということだ。

とすれば、さきほどの息子の話ではないが、クライアントから「福岡らしさを考えた橋をデザインしてほしい」という要請に対し、「ばかだなあ、あなたは。福岡らしさは、橋を架けるこの場所の特徴をよくつかんで作った結果として与えられる勲章のようなもので、福岡らしさは、デザインの目的にするものではありません」と。

どうだろう。意外とあたってい



ないだろうか。40 号かけてごたごた述べてきた「風景はデザインできるか」という問いの次にもうけたこの「地域らしさはどのように作り上げるか」の答えが、ここにあるとすれば、問題解決。地域らしさは、場を読み解き、作り上げた結果として、なじんだり、新しいらしさを作り上げることができたりする、そんなことだと。

パリのエッフェル塔も、パリらしさをデザインの目的の一つにしてつくられたものではない。逆に、エッフェル塔があるから、今は、パリらしい風景になっているのだと。

さて、今回紹介した本は、その思い込みの究極の話ではないかと思ったから取り上げた。

風景そのものと違い、風景の一部のある瞬間を切り取った一枚の写真は、それを見る人の「思い込み」がドラマを生み、芸術性を高める。いい写真というのは、そのような「思い込み」ができる「意味ありげな写真」が評価されるのだということだ（と、思う）。

思い込みというのは、間違った方向に導くものでもあり十分に注意しなければいけないものである。

しかし、思い込むことで、人間は、前に進むことができるし、写真のような芸術作品と対話することができる。【続く】